

教育通信

25年度 第6号
通巻1816号

発行所：
高知県教職員組合
〒780-0850
高知市丸ノ内2-1-10
TEL088-822-4135
FAX088-823-2355

全教職員
配布
読んでね

県教組HPは

↓こちらから



80年目の夏、平和の尊さを再確認

8月15日、人権啓発センターにおいて、「8・15戦争を語りつづつどい」が行われました。参加者は、130名超。会場はほぼ満員でした。

オープニングは、今回の集会のために結成された高知県高等学校退職教職員協議会合唱団による歌（写真左）。平和への



の願いを込めて、練習を重ねてきた歌声を披露しました。

続いて記念講演。

講師に元高等学校教員の弘瀬和子さん（写真・右下）を迎え「戦争と食糧難く命ほど尊いものはない 命の重みに差別はない」との講演が行われました。

弘瀬さんは朝鮮半島からの引き揚げ体験と戦後の日本の食糧難について語られました。その証言は、日本の植民地支配、戦争の終結、そしてそれに続く混乱と飢餓の時代を生きた人々の貴重な記録です。

弘瀬さんの幼少期、日本の植民地支配下の朝鮮では、

朝鮮の人々は警察権力によって抑圧され、差別的な扱いを受けていたそうです。仕事の日当も不当に払われていたなど、朝鮮人が感じていたであろう威圧感を鮮明に描写しました。

1945年8月15日の終戦は、朝鮮半島の状況を一変させました。解放された朝鮮の人々が最初に向かったのは警察署であり、日本人警察署長は捕らえられ、馬車に乗せられて町中を引き回されたといわれました。この出来事は、それまでの権力構造の転覆を象徴しています。

多くの日本人が着の身着のまま避難を余儀なくされました。経営者は、不当



な賃金で働かせていたとして、朝鮮人の労働者から賃上げを要求されるといった事態も起こりました。社宅でじつと過ごしていた弘瀬さん一家は、連合軍が入り一定の治安が保たれるようになると、貨物列車で釜山まで移動。トイレもない過酷な環境で、長い時間をかけての移動だったそうです。釜山からは船で日本へ。その船旅もまた過酷なものでした。ようやく仙崎港（山口県）に到着。しかし、そ

から高知までの道のりも食糧難で大変な困難を伴いました。ようやく土讃線に乗り高知に帰るときも、列車内はリュックサックを置く場所もないほどの混雑だったようです。そんな中、見ず知らずの青年が新聞紙に包まれた真っ白いご飯とたくあんを差し出してくれたそうです。何年もの間、麦などの雑穀しか口にしていなかった弘瀬さんにとっては、その白いご飯は、脳裏に焼き付いていると話されました。

現在、日本の食料自給率が38%と低い水準にあり、自身の体験を通して、食糧を他国に依存することの危うさを訴えられました。戦争によって食糧の輸入が途絶えれば、日



本は再び飢餓に苦しむことになるかもしれないと警鐘を鳴らしました。そして、その中で命をつなぐ重要さを繰り返し述べられました。

戦争がもたらす悲劇と、平和な社会で食料に不自由なく暮らすことのありがたさを私たちに教えてくれました。そして、憲法を守って次世代に引き継いでいく事が重要だと話されました。

その後、昨年12月に行われた県教組青年部・韓国ピースツアーの報告がありました（写真左）。現地の人たちとの交流も含めて、平和の大切さを改めて学んだという報告でした。

お城下

夏、学びのために全国教研に参加。詳細は2面に▼分科会では、全国各地からの参加者が創意工夫された実践を報告されます。忙しい中だけど頑張っているそれらは、本当に宝物だと思います▼その分科会での、ある大学院生の発言。「自分は（決まり切ったことを教えるような教育が実践される中で）先生が嫌い・子どもが嫌いだった。しかし、（自由な発想で目の前の子どもたちに適した、押しつけではない教育を努力している）分科会での発表を聞いて、教師も頑張ることが出来るんだ・教育はいいものだ・教

育はいいものだった・教

育はいいものだった・教

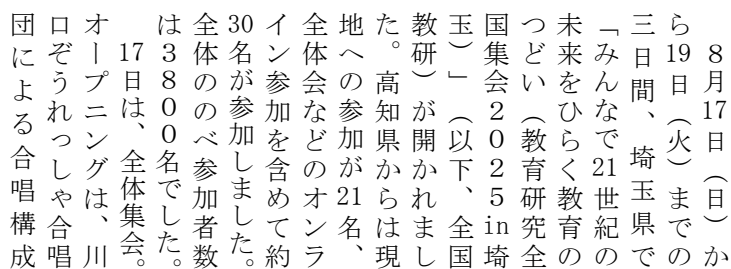
育はいいものだった・教

育はいいものだった・教

育はいいものだった・教

育はいいものだった・教

育はいいものだった・教



「ぞうれっしゃがやつてきた」。歌声が会場に響きました。開

教育フォーラム。シンポジストの発言からみんなで学び合

ました。
18・19日は、教科
別で11、課題別で7
の合計18の分科会が
開催されました。全
国からの参加者がお
互いの実践を報告し

合いながら、子どもたちに寄り添う教育・一人一人を大切にす
る教育を考え合いま
した。高知県からも
10人のレポーターが
それぞれの分科会で

発表し、学びを深め
合いました。

学んだことを二学
期からの実践に生か
し合おう、そしてそ
の実践をまとめ、11
月の高知県教育研究

集会（今回、県教研の案内チラシを同封しています。詳細はそちらで）や次年度の全国教研に持ち寄りとうと決意し合つて、戻ってきました。

憲法と子どもの権利条約がいきで輝く教育と社会を確立しよう

教育のつどい 2025 は、8 月 17 日から 3 日間、埼玉県内で開催され、開会全体集会と 6 つの教育フォーラム、18 の分科会に、のべ 3800 人を超える保護者、市民、学生、教職員の参加で大きく成功しました。全国各地から参加されたみなさん、ご審判いただいた現地実行委員会のみなさん、開会全体集会会場の埼玉会館をはじめ、教育フォーラム・分科会会場、特に自由の森学園中学校・高等学校のみなさんなど、すべての方々のご協力・ご尽力に心から感謝と敬意を表します。

開会全体集会には会場とオンラインを合わせて1300人の参加がありました。

現地企画の合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」では、子どもから大人まで一緒に歌い、平和への願いがステージいっぱいに広がりました。教育のつどい 2025 実行委員会代表委員の中村雅子さんが「子どもたちの権利を守り、夢をかたり、未来をかたろう」と呼びかけ、現地実行委員長の前田美江子さんが、子どもの尊厳を守り多様性を尊重する社会を「見えない人とのつながりで、民主的に共同をすすめる人を育てる」と訴え、教育のつどい 2025 in 埼玉が始まりました。

認定NPO法人 Dialogue for People フォトジャーナリストの安田菜津紀さんによる記念講演「難民の声、家族の歴史から考えた『共に生きるとは何か』」では、福島と沖縄の交流や、ガザの人々が日本の援助に対し東日本の復興を願い勇揚げを行うとりくみが紹介されました。「不条理のそばを黙って通り過ぎず、子どもたちに語りかけ続けることの大切さ」を訴えたことばが参加者に深く受けとめられました。

教育フォーラムでは、「子どもたちの声を聴き受け止めるにはどうあればよいか」、「学習指導要領の改訂と『教育 DX』に関わり、子どもの成長・発達につながるとりくみは」、「多様性を尊重する社会と教育をいまの学校の問題から考える」、「戦後・被爆 80 年の今、平和をどうつくっていくか」、「埼玉の県立学校等で行われている生徒・保護者参加の学校評価懇話会のとりくみ」、「私立中学・高校で行われている教育実践から、競争原理を超える教育をめざすとりくみ」など、オンラインを含め約 760 人が参加し交流と討論が行われました。

分科会では、様々な観点から豊かな実践が報告されました。学校行事での自主的な子どもによるとりくみがもたらす成長・発達の様子が多く紹介されました。平和教育では、地域の戦禍など身近な題材を調べ掘り下げるとりくみが報告されました。また、行事や総合的な学習・総合的な探究だけでなく、教科の授業で扱われた平和活動のとりくみなどが討論されました。また、子どもの実態から教育課程を編成する中で、教職員が集団として成長していく事が報告されました。ICTやタブレットを活用する授業づくりの実践報告についても多角的に意見の交流が行われました。子どもたちのために機器をどのように使うことがよいか模索し、検証していくことの重要性が確認されました。

登校拒否・不登校が義務教育段階で過去最多の 34 万人を超えた中で、学校生活や学習活動になじめない子どもや特別な支援を必要とする子ども、日本語を母語としない子どもや家庭の生きづらさ・生きにくさが課題となっています。学校や地域で子どもの声を聴き、子どもにとっての「居場所」をつくるとりくみが交流されました。クラス通信を通じたクラスづくりなども多く報告され、子どもと教職員・保護者とのつながりの重要性が確認されました。子ども理解をどう深めるか、その困難さも含めて多くの分科会・教育フォーラムで議論がなされました。子どもの成長と発達を信じ、一人ひとりに寄り添っていいない実践が数多く報告され、「教育のついで」が積み上げてきた日本の民主教育が脈々と受け継がれていることがわかります。

いま、競争や管理で子どもをしる学校、異常な長時間過密労働で教職員を苦しめる学校など、このままでは子どもも教職員もこわれてしまうと感じるものが少なくありません。参議院選挙では外国人を敵視する排外主義や差別・分断を生むような喧伝がされました。これらを許さず、平和な生活を送る社会をもにつくることが大切です。学校や社会を変えるには大きな力が必要です。一人で頑張るのではなく、仲間を増やして、みんなで立ち上がることで、変化を起こすことができます。

顔を合わせて語り合うことで温かさや新たな気づきを得ることができました。ここで得た学びや励まし、勇気、活力など、たくさんのお土産を持ち帰り、家庭、学校、地域でともにがんばっていきましょう。

レポートでは、「子どもの権利条約」をいかした校則改正やルールづくりなど、当事者としての子どもたちの意見にもとづいた実践が多く報告されました。子どもの声を聴き、いかす実践をすすめることが大切です。また、ジェンダー平等を考える実践や包括的セクシュアリティ教育、大学生のレポートなど多様な報告がありました。一人ひとりの障害特性を理解し寄り添う実践報告も多く見られました。環境を学ぶとくみや、子どもが民主的に社会に向き合おうというとりくみには大きな可能性を感じさせられました。

いまこそ憲法と子どもの権利条約、児童憲章を守りいかすとりくみを、子どもの豊かな成長・発達を保障するさまざまな運動と結び、職場や地域から声を上げさらに広げていきましょう。

＜私たちの給与の決定方法＞

8月中旬	国人勧発表
8月下旬	県人事委員会へ要望書を提出
9月中旬	県人事委員会と組合で話し合い
10月中旬	県人事委員会勧告発表
同時期	県教組から県教委へ要求書提出 賃金改善要求署名を実施
11月	県教委と組合の交渉 賃金改善要求署名の提出
12月	県議会で給与条例改正 給与・勤務条件改定が実施へ
12月下旬	追給などの支給

8月7日、人事院は政府と国会に対し2025年度の国家公務員の給与に案する勧告(以下、国人勧)などを発表しました。月例給を平均で3.6%引き上げる(約1万5千円)とともに、一時金を年間0.5月引き上げる(年間2万円程度)という内容です。

(その主な内容は、下記の一覧にあるとおりです。なお、引き上げ額は、一律ではなく給与号俸によつて差があります。) 国人勧が出されたからと言って、給与改定などが決定したわけではありません。この後、私たち地方公務員の給与や待遇は、左のような経過

県人事委へ申し入れを実施！

国人勧 月例給・ボーナス引き上げへ

を経て、改定されていきます。国人勧の内容の良い点は取り入れつつ高知県の実態に合わせた県独自の改善を盛り込んだ県人事委員会勧告となるように8月27日に県人事委員会に申し入れを行いました。これから、人事委員会と話し合いをしたり、県教委との交渉を行ったりします。勤務実態や待遇を少しでも改善していくため、県人事委員会の声や県教委に届けることが重要になってきます。署名や要求アンケート等に協力をお願いします。

官民給与の比較方法の見直し

- ・比較対象企業規模を「50人以上」から「100人以上」に引上げ
- ・本府省職員との対応関係を東京23区・本店の企業規模「500人以上」から「1,000人以上」に引上げ
⇒2025年は見直し後の方法で比較。月例給は、生じた較差を解消するため、次のとおり改定

月例給

官民較差: 15,014円 (3.62%) 【2025年4月実施】
【2025年4月分の民間給与を調査して官民比較】

◎俸給

- ・採用市場での競争力向上のため、初任給を大幅に引上げ
- 【総合職(大卒)】242,000円(+5.2% [+12,000円])
- 【一般職(大卒)】232,000円(+5.5% [+12,000円])
- 【一般職(高卒)】200,200円(+6.5% [+12,300円])
- ・若年層に重点を置きつつ、その他の職員も昨年末に大幅に上回る引上げ改定
- ※行政職俸給表(一)の平均改定率は、3.3%
- ※官民較差はいわゆる「ベア」に相当。モデル試算した定期昇給分を加えると、月取で約5.1%の給与改善

◎本府省業務調整手当

- ・幹部・管理職員を新たに支給対象に加え、51,800円を支給
- ・課長補佐級の手当額を10,000円、係長級以下の手当額を2,000円引上げ

◎特勤勤務手当等

- ・著しく不便な地に所在する官署(特勤官署等)に勤務する職員に支給される特勤勤務手当等と他の手当との減額調整を廃止
- ・特勤官署等への採用に伴い転居を行った職員を手当の支給対象に追加

◎ボーナス

【直近1年間(2024年8月～2025年7月)の民間の支給状況を調査して官民比較】

◆支給月数の改定【2025年4月実施】

年間4.60月分→4.65月分(期末手当及び勤続手当の支給月数をともに0.025月分引上げ)

給与・職責をより重視した新たな給与体系に移行するため先行して行う見直し

官民給与の比較方法、本府省業務調整手当、特勤勤務手当等の見直し(以上前掲)のほか、昇格前の

級に一定期間在級することを求める制度(在級期間表)を廃止【2026年4月実施】

その他の主な給与制度の見直し

◎通勤手当

【②は2025年4月実施、①及び③は2026年4月実施】

- ①自動車等使用者について、65km以上から100km以上までの区分(5km刻み)を新設(上限66,400円)
- ②現行の「60km以上」までの距離区分についても、民間の支給状況等を踏まえ、200円から7,100円までの幅で引上げ
- ③1か月当たり5,000円を上限とする駐車場等の利用に対する通勤手当を新設

◎職員の月例給与水準を適切に確保するための措置【2026年4月実施】

人材獲得競争が激しくなる中、最低賃金の上昇が続いている状況を踏まえ、月例給与水準が地域別最低賃金に相当する額を下回る場合に、その差額を補填するための手当を措置

教職員のための自動車保険は



全教自動車保険

教職員と家族を守って35年

WEBでかんたん
見積依頼

右のQRコードから見積り依頼を⇒

お問合せは代理店ケンキョーまで ☎ 0120-459-813

ゆきとどいた教育を求める署名も実施中!
ぜひご協力下さい!

教職員定数・学級定数改善や教育条件整備には、教育予算を増額することが不可欠です。今、私たち高知県教組では、12月県議会と26年2月の国会に向けて、教育予算増額を求める署名にも取り組んでいます。県議会では(私学の署名と合わせて)3万筆を、国では1000万筆を目標に、署名活動を展開中。

学校現場でも地域でも署名を広げ、1筆でも多くの方にご協力頂けるよう、取り組んでください。署名用紙は、教育通信8月号に同送していますが、高知県教組HPからダウンロードすることも出来ます。よろしくお願いします。

高知県内の四国88カ所霊場巡り⑥

1	2	3	4	5
6			7	
8				
			9	
10	11		12	
13				

【タテのカギ】

1. 今年は9月15日。
2. 何かをする際の事情。〇〇〇〇良く。
3. ガ、ザ、ダ、バ
4. 夏の終わり。〇
5. 用事を済ませて帰ってくる地点
9. 悲しくて、〇〇
- 〇ない気持ち

【横のカギ】

1. 運動会に向けて、今日は各色の〇〇〇〇〇〇
6. 土佐弁で「動く」。でも、同じ意味で各地で使われている
11. くつつきワードごう〇〇、と〇〇り、〇〇せつ
12. 手紙や書物のこと
13. 幹線から分かれて、別な場所へ行かせる線路

7. まだ知られていないこと。
8. 誰からも老人と認められる程、年を取った男性
9. 大体、その程度
10. 読めるかな、矩
12. 長く使われて古くなってしまったもの。

【7月号の当選者】

- 「種間(たねま)寺」(高知市・第34番、春野町の田園の中にあります)でした。抽選の結果、次の3名が当選されました。おめでとうございます。
- かえるさんさん
(野市中)
片山七海さん
(高岡高校)
オバさんさん
(大豊学園)

【みなさんの声より】

○30〜35年前の若かりし頃は、教員志望者は本当に掃いて捨てるほどいました。そのため採用も「臨時のあの先輩が○年目だから、あんたは採用の順番が来るまで、まだもう少し」と頑張らないかんね」などと励まされたものです。AI等の発達でさまざまな仕事が減るスピード以上に、人口減も随分と拍車がかかってきました。生き残りのために各業種が採用(仕事内容の条件含む)に工夫を凝らしているようですが、教員採用は完全に敗北しています。お偉い方々が未来の世の中の動向に対する対策を多角的な視点で考えられず、決断してこなかったことも致命的。(教員の時間外労働の現状に対し、いまだに昭和の高度経済成長期の時代と同じ、おカネだけの報酬の視点ですから)

○いつも楽しく拝見しています。それぞれの場所子どもた

ちのために頑張っておられるのが励みになります。

○(高岡高校は)今年度は隔年で行われている文化祭がありますので、皆さん是非、お越しくださいませ。11月8日(土)、一般公開予定です。

○県内の小学校での盗撮の不祥事を受け、管理職による校内の隠しカメラの点検がありました。不祥事が起きるたび校内で対策を練る時間を捻出し、そのたびに悶々とした思いを抱えてきましたが、今回の対応には、これまでとは比にならないほどのストレスを感じました。信頼回復のためとはいえ、真面目に頑張っている職員までもが疑われているようで。人手不足が深刻な現場の明るい未来のために、これ以上不祥事が起きないことをただただ祈るばかり。

○教材研究する空き時間が週に2回しかなく、授業準備が追いつきません。生徒の対応、保護者対応、

分掌業務をしていたら、2回の空き時間では足りず。休憩時間を取らず、朝と放課後も残業しています。一学期は、家で授業作りをするしかなく、毎日の睡眠時間は1〜3時間。管理職に限界ですと話をしましたが、改善されず。数人が同じように訴えましたが、まるで初めて聞いたという対応だったそうです。65歳まで働きたいと思ってしまうが、難しいと思うようになりました。学校によつては空き時間が確保され、17時定時で帰れて自由な時間も睡眠時間も確保されているところもあります。教員の安全安心も確保されないという教育現場はさらに厳しいものになるのではないかと懸念しています。

○暑すぎて、コメントも考えられない。

メールはこちら

